

レバノン共和国ティール市郊外ラマリ地区所在 地下墓TJ04の保存修復研究2007年度概要報告

Report of Conservation and Restoration
of TJ04,at Ramari Area,Tyre,in Lebanon,2007

西山 要一*

Yoichi Nishiyama

1 研究の目的と経過

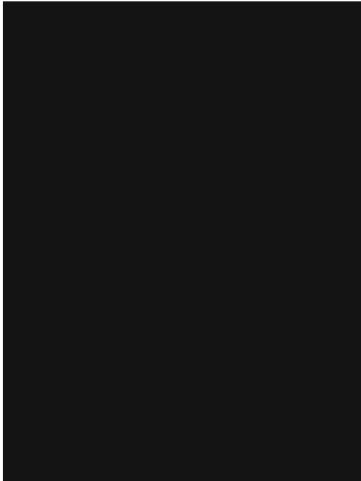
レバノンの首都・ベイルートの南約80kmにあるティール市には、世界文化遺産「フェニキアを中心都市として栄えた港町ティール」がある。フェニキア時代の遺構はまだ未解明であるが、列柱道路・公共浴場・劇場・水道橋・戦車競技場などのローマ時代の遺構が発掘され、保存修復されている。

ティールの世界遺産地区の東約3kmの丘陵裾にはローマ時代からビザンチン時代にかけての地下墓・掘込墓が多数営まれている。この一角のラマリ地区に本研究の対象である地下墓TJ04が存在する。TJ04は既に開口していて墓室内部はかなりの損傷を受けていたが、2002年の西山らによる調査によって壁面と天井に色鮮やかな壁画を発見し、さらに2003年・2004年の調査によって墓室内部に落下堆積していた土砂中より多数の壁画片と石材を発見し、これらを原位置に戻せば、TJ04墓室の壁画および墓室を復元できることが判明した。これらの成果を基礎にして、2005年度には、落下した石材の原位置への復帰を開始し、全墓室の半ばを修復することができた。修復と並行して、地下墓構造石材の材質分析、壁画顔料の組成成分分析、壁画の汚れを除去して壁画を強化するテストとともに温湿度・照度・紫外線強度・二酸化炭素濃度・大気汚染などの保存環境調査を実施し、将来のTJ04地下墓の良好な保存環境の確保の研究も進めた。

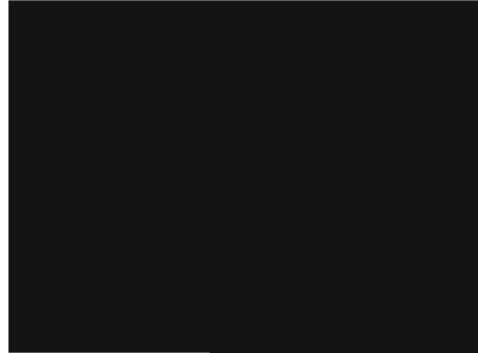
2006年度は引き続きTJ04地下墓の保存修復・整備を継続する予定であったが、2006年7～8月にイスラエルのレバノン侵攻が勃発し、最終段階にあった準備を中断し夏季の作業を断念せざるを得なくなった。多くの犠牲者を出した戦闘も一ヶ月余で終結し、安全を確認し、かつ大幅に調査期間・研究項目を縮小して、2007年3月に2週間ベイルートとティールを訪れ、主として出土遺物の実測を行った。

2007年度は、夏季にTJ04地下墓の保存修復・整備を完成し、貴重な壁画地下墓として公開する

ことを目指していたが、レバノン北部トリポリでの戦闘が勃発して、組織していた調査隊の派遣を中止し、教員・研究者のみの調査体制に縮小して研究を実施した（2007-1）。その後、トリポリでの戦闘も収束し現地の安全を確認し、学生を含む調査隊を組織して2008年2～3月に派遣し、TJ04墓室の修復、遺構・遺物の写真撮影・実測、環境観測、顔料の材質分析などを完了することができた（2007-2）。現地においてレバノン考古総局長、在レバノン日本大使等を迎え完成式を挙行し、4年間5次にわたる修復研究を終了した。



レバノン共和国地形図



地下墓TJ04平面プラン（3次元計測・下段納体室レベル）

2 2007年度の研究計画と体制

前述のとおり2007年度は2007年8～9月の夏季と2008年2～3月の春季の2次にわたって現地での調査と修復を行った。

（1）2007-1（2007年8月20日～9月9日）の計画と調査体制

- 計画
- 1 墓室床に落下の地下墓構造石材・壁画石材の原位置復帰
 - 2 欠失構造石材の同質石材での修復
 - 3 亀裂のある納棺棚天井の金属製支持台の作成設置
 - 4 脆弱化した石材の強化
 - 5 温湿度・照度・紫外線強度・二酸化炭素濃度・大気汚染などの保存環境調査
 - 6 壁画顔料の組成成分分析、天然顔料採掘地の探索

体制

調査隊

西山 要一（奈良大学文学部文化財学科・教授、保存科学・修復）

松田 正昭（考古学研究）

池之上 晃敏（株式会社アクト・社長、石材強化）

ガビー・マアマリー（パラマンド大学・教授、絵画技法・顔料の研究）

アドバイザー（カウンターパートナー）

アッサド・セイフ（レバノン考古総局・次長）

アリ・バダウィ（レバノン考古総局・調査官）

ナーデル・シクラウイ（レバノン考古総局・調査官）

現地世話人

アーメル・シクラウイ（歴史研究者・デルカヌーン学校教員、ワーカー総括）

アリ・サイード（生物化学研究者・デルカヌーン学校教員、ワーカー総括）

（2）2007-2（2008年2月22日～3月15日）の計画と調査体制

- 計画
- 1 墓室石扉と階段の修復
 - 2 保護扉の製作・設置
 - 3 墓室・納棺室の実測と隣接する石切場の実測
 - 4 石材の強化処理と修復
 - 5 壁画のクリーニングテスト
 - 6 温湿度・照度・紫外線強度・二酸化炭素濃度・大気汚染などの保存環境調査
 - 7 出土遺物の実測・写真撮影
 - 8 壁画顔料の組成成分分析
 - 9 壁画の歴史と描法の研究
 - 10 修復完成式の挙行

体制

調査隊

市川 良哉（学校法人奈良大学・理事長、奈良大学代表）

中川 富幸（奈良大学学生課・課長補佐、秘書）

西山 要一（奈良大学文学部文化財学科・教授）

辛 長河（奈良大学大学院文学研究科文化財史科学博士後期課程）

倉賀野 健（奈良大学大学院文学研究科文化財史科学博士前期課程）

中山 真吾（奈良大学大学院文学研究科文化財史科学博士前期課程）

板垣 泰之（奈良大学文学部文化財学科・3回生）

中谷 可奈（奈良大学文学部文化財学科・2回生）

石郷岡 怜（奈良大学文学部文化財学科・1回生）

パトリツィア・ロ・サルド（Istituto Italiano Arte Artigianato e Restauro・教授）

武東 祥子（Istituto Italiano Arte Artigianato e Restauro・学生）

小林有紀子（Istituto Italiano Arte Artigianato e Restauro・学生）

泉 拓良（京都大学大学院文学研究科・教授）

松田 正昭 (考古学研究)

池之上見敏 (株式会社アクト・社長、石材強化)

ガビー・マアマリー (パラマンド大学・教授、絵画技法・顔料の研究)

アドバイザー

アッサド・セイフ (レバノン考古総局・次長)

アリ・バダウィ (レバノン考古総局・調査官)

ナーデル・シクラウィ (レバノン考古総局・調査官)

現地世話人

アーメル・シクラウィ (歴史研究者・アルカヌーン学校教員、ワーカー総括)

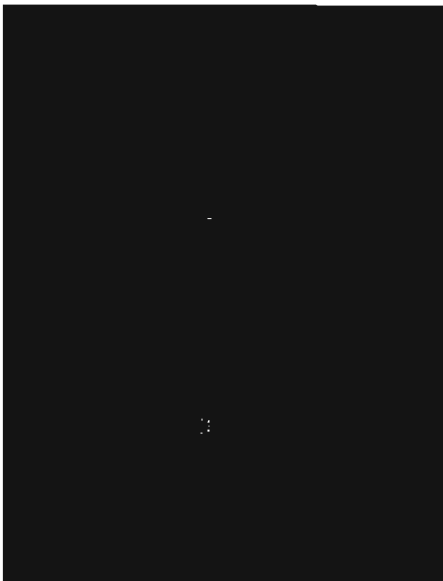
3 2007年度研究の成果

(1) 墓室石扉と階段の修復

地下墓TJ04の墓室入口の石扉と階段の修復を行った。石扉は二枚の扉と上下の框の4つの部分から構成されている。そのうち一枚の扉は3片に破損していたものの全体が揃い、下部の框も完形で発見していたが、上框は半分のみ残存、一枚の扉は失われていた。

そこで、扉一枚と下框はオリジナルを使い、失われた扉一枚は新しい石材で、上框は残存する部分をモデルにして新しい石材で製作し、墓室入口の扉を組みあげた。

階段は、上方は岩盤の削りだし、下方は加工石材を用いて作られていたが、下方の2段分の石材が失われていた。一石は墓室内から発見した石材を設置し、一石は新材を加工して設置し、階段を修復を完了した。



修復を完了した扉 (墓室内より)



修復を完了した階段

(2) 保護扉の製作

保護扉は、外部からの太陽光と紫外線を防ぎ、また、墓室内の温度と湿度の変化を抑制する役割を担う。保護扉は鋼鉄材で製作しワインレッドのペイントを塗布して、墓室石扉の外側に設置した。この際、保護扉の枠と岩盤との隙間にはモルタルを充填して外気からの遮断を図った。また、墓室入口の内側、墓室に突き出るように半径1 mの半円形の観覧用のスチール製スタンドを設置した。このスタンドは、今後の壁面や墓室内環境の経時観察にも利用する。



保護扉と観察スタンドの製作



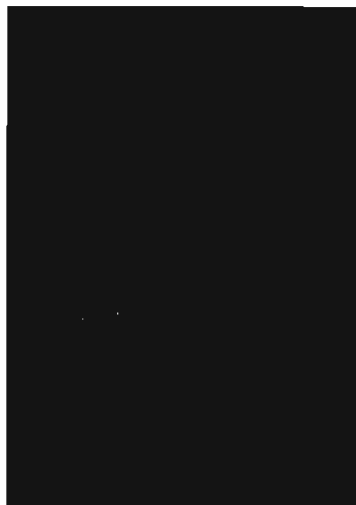
設置を終えた保護扉

(3) 墓室の修復

2005年度に続いて墓室の修復を行った。オリジナル石材、特に墓室の前面の壁面のある石材については壁面の配置・描法を考慮しながら設置した。北・東・南壁の上部と西壁の壁面の残存し



新石材の加工

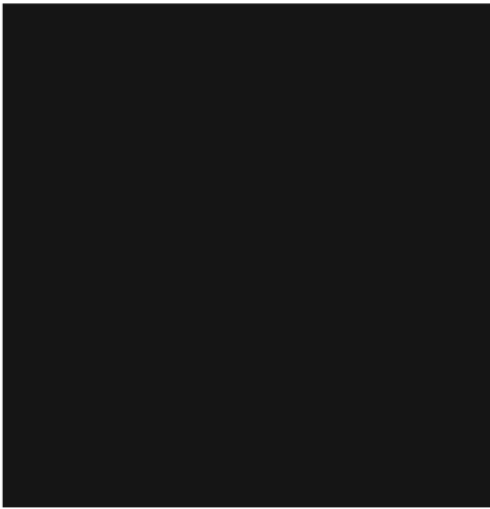


オリジナル石材の設置

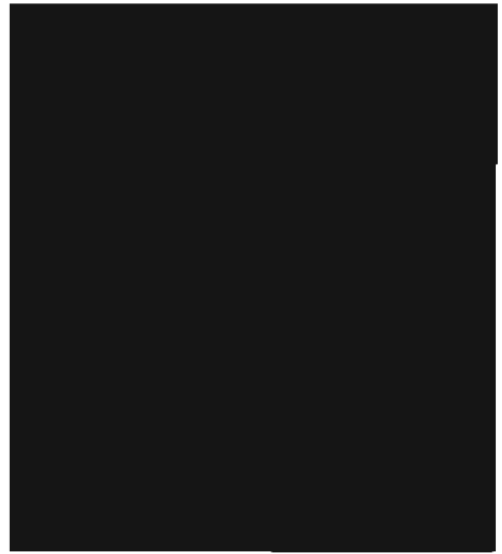
ていない箇所の石材については、形・大きさから原位置を推定して設置し、また、欠失する部分にはレバノン考古総局から譲り受けた石材および新石材を加工して設置した。墓室内より発見され修復に利用した石材すなわちオリジナル石材は 39 点、レバノン考古総局より提供を受け修復に利用した石材は 42 点であった。



墓室に転落していた石材は壁面の有無、形・大きさなどを調査して原位置を推定し設置した



北 壁



東 壁



南 壁



西 壁 (入口)

(4) TJ04の墓室・納棺室の実測と石切場の実測

墓室の北壁・東壁・南壁・西壁、階段の北壁・南壁、および納棺室EL2-1, SL2-0, SL3-0の実測を行い、TJ04の遺構すべての実測を完了した。

また、地下墓TJ04に近接する石切場の実測も行った。この石切り場は興味あるかつ重要な遺構

である。ローマ時代あるいはビザンチン時代の石工たちはこの遺跡から石材を切り出し、墓や建物を建造したと思われる。



墓室東壁の実測



石切場の実測

(5) 石材の強化処理と修復

地下墓TJ04の石材には風化し脆弱化したものがあり、そのうち13個の石材を珪酸塩樹脂OH100とOM25（ともにドイツのワッカーケミの商品）を使って強化処理を行った。



スプレー法による樹脂含浸・強化



スポイト滴下法による樹脂含浸・強化

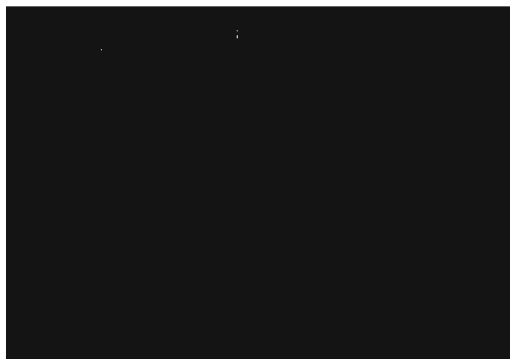
(6) 壁面のクリーニングテスト

壁面の汚れを除去するために数通りの物理的方法と化学的方法を試みた。物理的方法としては特殊なスポンジであるウイシャブとメスを使い、化学的方法としては炭酸アンモニウム、および重炭酸アンモニウム・EDTA・CMCなどの混合クリーニング剤であるAB57を使った。

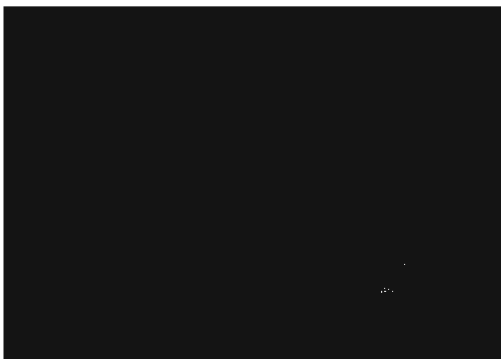
汚れの軽い部分ではウイシャブと炭酸アンモニウムの12.5%水溶液で容易に汚れを除去することができた。汚れの比較的強い部分では、ウイシャブと炭酸アンモニウムの25%水溶液で、汚れの

強い部分はウイシャブとAB57を使用した。汚れの程度に応じてクリーニング法を選択する必要がある。しかし、天井の壁画表面で層をなす堅固な油脂性の汚れはウイシャブとAB57を使っても除去することはできなかった。

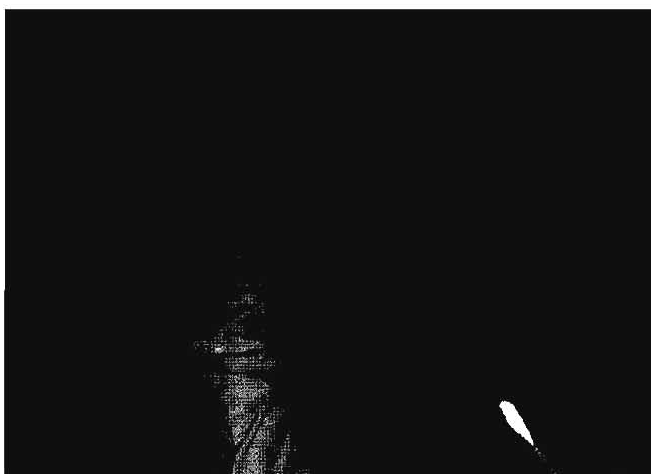
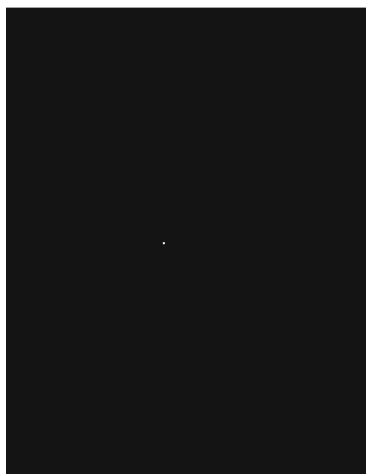
今回クリーニングを試みた方法は、広く世界中で壁画クリーニングに使われていて、壁画に悪影響を与えず安全性の高い方法である。テストで得た結果を十分に検討し、今後もクリーニングを継続したい。



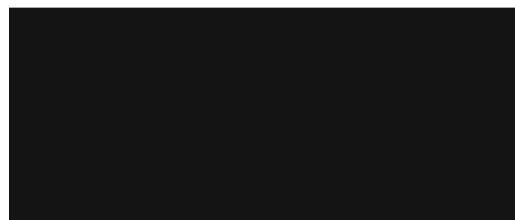
ウイシャブを用いたクリーニング（北壁）



メスで厚い汚れを剥がす（天井）



炭酸アンモニウム水溶液を用いたクリーニング（左：西壁、右：天井）



炭酸アンモニウム25%水溶液を用いたクリーニング（東壁）
（左：クリーニング前 右：クリーニング後）

(7) 環境の測定

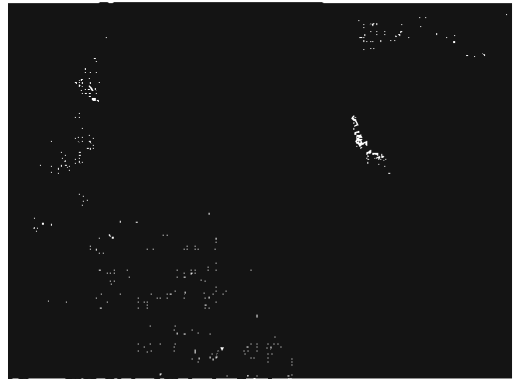
地下墓TJ04の墓室内と外部で温度・湿度・二酸化炭素濃度を測定した。この測定の結果から、墓室内の温度・湿度の変化は少なく極めて安定していることが明らかとなった。これは壁画の保存にとって好条件で、壁画が良好な状態で現在まで保存されてきた理由の一つがここに示されている。

しかし、墓室内で8名が作業を行うと、作業開始前の二酸化炭素濃度0.04%が0.17%まで急上昇する。高濃度の二酸化炭素は壁画の色褪せを引き起こす恐れがあるので墓室内での作業では十分な注意を要する。

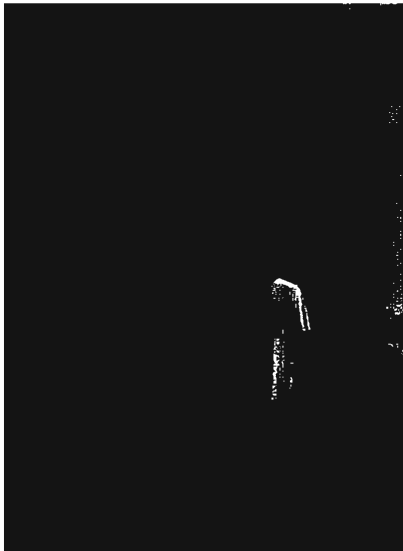
また、将来のTJ04墓室の公開に際しても見学者や見学時間の制限が必要であろう。



壁画表面温度の測定



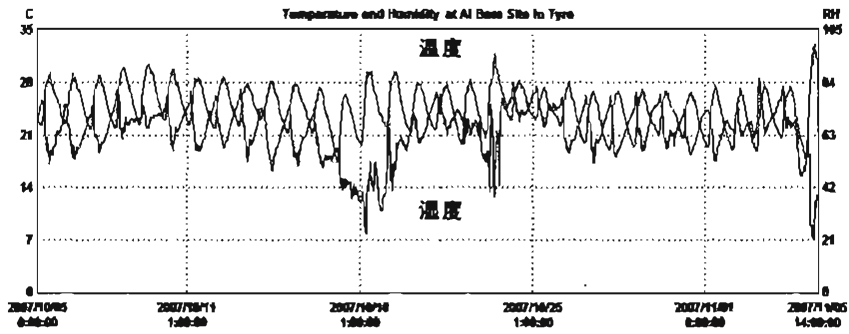
二酸化炭素濃度 (CO2) の測定



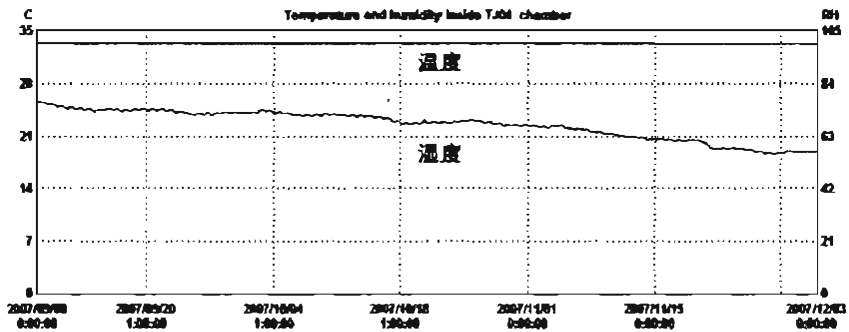
大気汚染調査



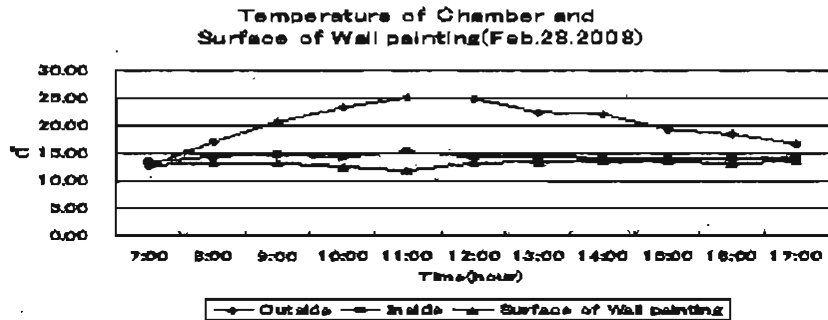
壁画の色彩変化調査



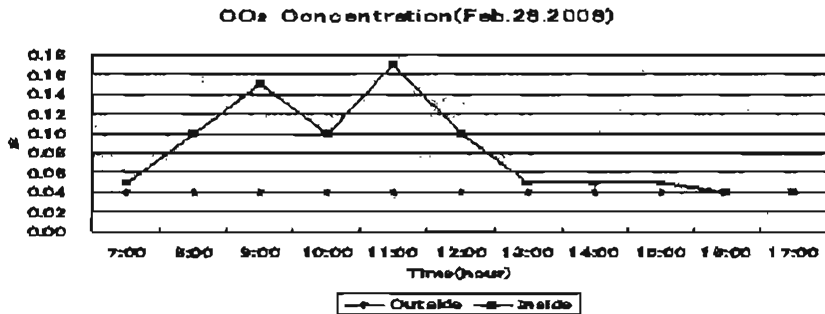
TJ04墓室外部の温度・湿度の変化 (アル・バス・サイト)



TJ04墓室内の温度・湿度の変化



壁画表面温度と墓室内外の温度変化 (2008年2月28日)



TJ04墓室内と外部の二酸化炭素濃度の変化 (2008年2月28日)

(8) 出土遺物の実測・写真撮影

2003年の調査開始以来出土したTJ04の土器・ガラス器・金属器・壁画等の遺物の実測と写真撮影を行った。遺物の記録作成は全て完了した。



遺物の実測風景



柱（鉛棺の破片）の実測図

(9) 壁画顔料の組成成分分析

顔料の組成成分分析を蛍光X線分析装置（XRF）、X線回折分析装置（XRD）を用いて行った。分析対象は、地下墓TJ04の壁画の顔料試料9点、およびガビー・マアマー氏がレバノン各地で採取した鉱石から氏自身が製造した36点の顔料試料である。分析はいずれも奈良大学に設置されている装置を使用した。

なお、分析データは現在解析中であり、ここにはTJ04の顔料試料の蛍光X線分析のデータのみを掲載した。



蛍光X線分析



TJ04壁画の顔料分析試料

TJ04壁画顔料試料の蛍光X線分析結果（XRF）

Sample	Al	Si	S	K	Ca	Ti	Fe	Cu
1 Green-1	2.86	11.48	0.82	4.31	70.72	0.54	9.06	0.23
-2	0.98	5.2	2.03	3.01	83.18	0.15	5.4	-
-3	1.02	10.24	1.8	5.21	68.83	0.21	11.89	-
average	1.62	8.97	1.55	4.18	74.58	0.3	8.73	0.23

	Si	S	Ca	Ti	Fe
1 Plaster-4	2.58	2.45	94.33	0.11	0.55
-5	0.64	0.43	98.92	-	-
-6	4.14	0.65	94.63	0.07	0.51
average	2.45	1.16	95.96	0.09	0.53

	Mg	Si	S	K	Ca	Ti	Fe	Cu
2 Green-1	5.26	16	0.54	2.43	68.04	0.69	6.68	-
-2	0.99	14.8	1.19	3	68.53	1.15	8.67	3.67
-3	-	13.18	0.72	2.76	69.04	0.58	13.69	0.04
-4	-	24.37	0.57	8.3	47.58	0.26	18.83	0.08
average	3.13	17.04	0.76	4.12	62.8	0.68	12.02	1.26

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
2 Blown-5	9.9	1.01	0.71	84.81	0.42	3.14
-6	11.14	0.78	0.72	61.69	0.33	25.16
-7	9.11	0.71	2.1	73.6	0.85	13.64
-8	8.85	2.02	0.83	80.03	1.26	7.01
average	9.75	1.13	1.09	75.08	0.71	12.24

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
2 Plaster-9	7.91	0.55	0.88	88.49	0.24	1.92
-10	4.2	0.69	0.69	93.93	0.12	0.48
-11	2.82	0.37	0.6	95.83	0.11	
average	4.91	0.5	0.72	92.68	0.16	1.02

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
3 Glay-1	1.83	1.76	1.03	93.76	0.27	1.43
-2	1.95	1.96	1.09	92.96	0.4	1.54
-3	1.91	1.16	1.25	93.06	0.25	2.28
-4	1.91	1.16	1.25	93.06	0.25	2.28
-5	3.39	1.23	0.84	92.07	0.14	2.16
-6	1.5	1.08	1.15	93.9	0.26	2.03
average	2.05	1.39	1.1	93.14	0.26	1.95

綜合研究所所報

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
3 Plaster-7	2.53	0.39	0.59	96.15	0.02	0.18
-8	8.3	1.02	0.7	88.72	0.19	0.89
-9	4.94	1.35	0.82	92.09	0.02	0.65
average	5.26	0.92	0.7	92.32	0.08	0.57

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
4 Red-1	5.26	0.43	0.72	78.02	0.16	15.21
-2	17.5	0.47	0.62	79.43	0.13	1.68
-3	16.36	0.62	0.61	75.63	0.22	6.38
-4	14.07	0.54	0.63	82.52	0.23	1.79
average	13.3	0.52	0.65	78.9	0.19	6.27

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
4 Plaster-5	5.13	0.35	0.8	93.3	0.12	0.35
-6	5.34	0.49	0.66	92.91	0.11	0.35
-7	8.92	0.55	0.6	89.3	0.08	0.38
average	6.46	0.46	0.62	91.84	0.1	0.36

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
5 Red-1	4.29	0.55	0.75	79.62	0.25	14.38
-2	3.81	0.6	1.1	76.92	0.28	17.14
-3	4.53	0.77	1.19	89.24	0.45	23.65
average	4.21	0.64	1.01	75.26	0.33	18.39

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
5 Yellow-4	6.65	0.45	1.11	88.05	0.27	3.32
-5	4.66	0.44	0.97	91.16	0.36	2.28
-6	3.52	0.54	0.65	89.33	0.1	5.73
-7	5.06	0.7	0.81	89.92	0.25	3.09
average	4.97	0.53	0.89	89.62	0.25	3.61

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
5 Plaster-8	7.33	0.5	0.65	91.14	0.06	0.15
-9	2.02	0.48	0.62	96.07	-	0.71
average	4.68	0.49	0.64	93.61	0.06	0.43

西山：レバノン共和国ティール市郊外ラマリ地区所在地下墓TJ04の保存修復研究2007年度概要報告

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
5 Green-10	9.31	0.52	4.04	76.35	0.49	9.12
-11	7.34	0.82	2.99	79.32	0.84	8.55
-12	9.92	0.76	3.96	77.97	0.92	6.28
average	8.86	0.7	3.66	77.88	0.75	7.98
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
6 Blown-1	4.81	1.01	1.04	83.4	0.35	9.23
-2	1.32	0.84	0.74	90.19	0.76	6.03
-3	2.78	0.7	0.8	86.78	0.1	8.72
average	2.97	0.85	0.88	86.79	0.4	7.99
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
6 Yellow-4	2.13	0.48	1.04	89.75	0.08	6.4
-5	4.4	0.56	0.91	90.65	0.13	3.23
-6	3.82	0.6	1.06	89.88	0.07	4.42
average	3.45	0.55	1	90.09	0.09	4.68
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
6 Plaster-7	3.28	0.66	0.63	94.95	0.15	0.21
-8	1.4	0.65	0.63	96.88	0.25	0.08
-9	2.25	0.65	0.68	95.27	0.29	0.74
average	2.31	0.65	0.65	95.7	0.23	0.34
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
7 Red-1	7.24	0.89	0.8	64.28	0.78	25.85
-2	4.59	0.97	0.72	73.26	0.84	19.49
-3	5.12	1.77	0.75	67.29	2.84	22.08
-4	3.64	1.1	0.67	79.38	1.31	13.79
average	5.15	1.18	0.74	71.05	1.44	20.3
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
7 Yellow-5	4.69	0.79	0.78	91.16	0.94	1.54
-6	8.79	0.48	0.9	86.24	1.05	2.42
-7	2.27	0.59	0.8	93.63	0.59	2.21
-8	4	0.65	0.64	92.48	0.65	1.44
average	4.94	0.63	0.73	90.88	0.81	1.9

	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
7 Plaster-9	1.94	0.43	0.62	96.6	0.17	0.14
-10	1.46	0.74	0.57	95.33	1.47	0.32
-11	3.63	0.54	0.64	93.64	0.21	1.15
average	2.34	0.57	0.61	95.19	0.62	0.54
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
8 Yellow-1	3.39	0.49	0.72	85.24	0.47	9.52
-2	2.18	0.62	0.79	93.52	0.16	2.58
-3	6.35	0.78	0.77	86.2	0.63	5.08
average	3.97	0.63	0.76	88.32	0.42	5.73
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
8 Plaster-4	4.66	0.55	0.81	92.3	0.29	1.12
-5	3.87	0.62	0.66	94.41	0.17	-
-6	3.73	0.6	0.77	94.31	0.16	0.2
average	4.09	0.59	0.75	93.67	0.21	0.66
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
9 Red-1	5	1.21	1.26	70.49	0.43	21.36
-2	1.67	2.53	0.65	75.48	0.27	19.23
-3	3.47	1.34	1.17	55.4	0.37	38.03
-4	2.56	3.03	1.12	70.29	0.14	22.66
average	3.18	2.03	1.05	67.92	0.3	25.32
	Si	S	K	Ca	Ti	Fe
9 Plaster-5	2.54	0.68	0.65	95.95	0.01	
-6	1.93	0.38	0.61	96.89	0.03	0.22
-7	4.72	2.15	0.78	91.45	0.08	0.4
average	3.06	1.07	0.68	94.7	0.04	0.31

(10) 壁画の歴史と描法の研究

ティール近郊の壁画の描かれている地下墓3基の現地調査を行った。

アル・クライルの地下墓は左右と奥の壁に11の納棺棚が設けられ、その一つには石棺が挿入されている。そして天井全面に、緑と赤の葉枝を円形に1/4ずつ重ねて描き、各円の中央には緑と赤の八弁の花を描いている。現在、墓室の右側天井部分が道路建設により大きく抉りとられ、納棺棚は盗掘により破壊されている。しかし、天井の壁画の保存状態は良好で天井以外の破損は少ない。

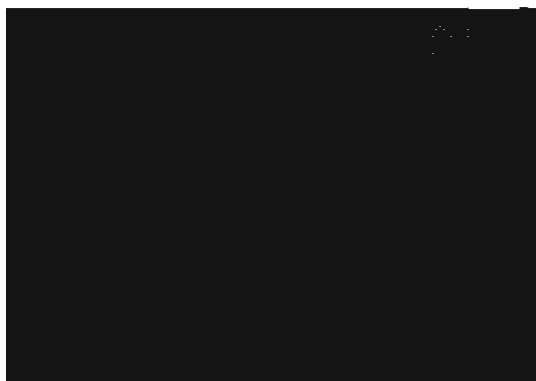
デル・カヌーン・ラス・アラインにある壁画地下墓は左右と奥の壁に11の納棺棚があるほか、



アル・クレイルの壁画地下墓



デル・カヌーン・ラス・アラインの壁画地下墓



ボルシュ・アル・シャマリの壁画地下墓

獅子の顔と花綱の浮き彫りのある石棺が墓室床の奥に置かれている。そして壁には神の顔、兎、葡萄、果物、花、大理石模様が、天井には太陽・月・鳥・花が緑・赤・黒などの顔料で描かれている。現在、納棺棚は盗掘によって大きく破壊され、壁画は地下墓上の農園から浸潤する過剰な水によって壁画の基体である漆喰壁のカルシウムが溶出してスポンジ状に劣化し、あるいは剥落して、消滅寸前の状況にある

ボルシュ・アル・シャマリにある地下墓は、床に掘り込みの棺が7基あり、壁には孔雀のほか食用の鳥、魚、パン、肉、葡萄酒壺、そして花綱の下には銘文が記されている。天井には鳥と花を描いている。現在、掘り込み石棺は盗掘によって大きく破壊されているが、壁画はさほどの破壊は受けていず保存状態は極めて良好である。

以上の3か所の壁画地下墓について写真と簡単な記録を作成した。今後も、壁画の歴史とこの地域の特性の研究を続けていきたい。

(11) TJ04修復完成記念式典

地下墓TJ04の保存修復完成記念式典を2008年3月11日に執り行った。

12時より地下墓TJ04の前において 学校法人奈良大学市川良哉理事長の開会の挨拶と、くす玉わり、鍵の贈呈、地下墓墓室の公開を行った。

13時からは会場をティール市のクイーン・エリッサ・ホテルに移し、市川良哉理事長の挨拶、

レバノン考古総局フレデリコ・フセイニ局長、黒田義久在レバノン日本全権大使、アマラ・ワダ郡助役の各氏から祝辞を頂戴した。その後、祝宴を開き15時に閉会した。

祝賀列席者は以下のとおりである。

招待

[レバノン共和国]

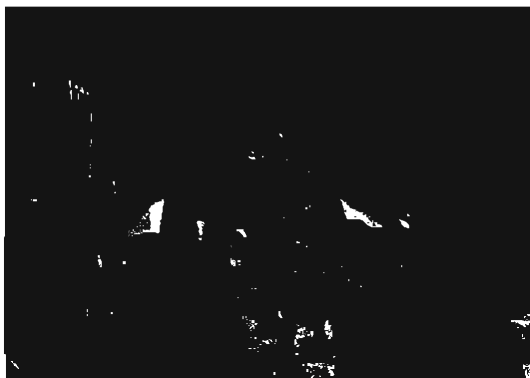
フレデリコ・フセイニ (レバノン考古総局局長)、アッサド・セイフ (レバノン考古総局・次長)、スージー・ハキミアン (ハイムト国立博物館・館長)、アンナ・マリエ (“BAAL”編集長)、アリ・バダウイ (レバノン考古総局・調査官)、ナーデル・シクラウイ (レバノン考古総局・調査官)、ガビー・マアマリー (ハマト大学・教授)、ハッサン・バダウイ (レバノン大学・教授)、アマラ・ワダ (ブルジュ・アル・シャマリ・助役)、アーメル・シクラウイ (テル・ハーン学校・教諭)、ハリル・マダニ (調査事務所管理)

[日本国]

黒田 義久 (在レバノン日本全権大使)

主催者

市川良哉、中川富幸、西山要一、泉拓良、松田正昭、辛長河、倉賀野健、中山真吾、小林有紀子、板垣泰之、中谷可奈、石郷岡怜



くす玉割り



剣の贈呈



記念プレート (日本語・アラビア語・英語)



祝辞 (フレデリコ・フセイニ考古総局長)



祝辞（黒田義久在レバノン日本大使）



祝 宴

お わ り に

今回、地下墓TJ04の墓室、納棺棚、階段等の修復、および遺構、遺物の記録を完了することができた。TJ04の修復研究の4年目、すなわち最終年の研究として最高の成果を得ることができた。これらの成果を基礎にして、地下墓TJ04の構造や性格を明らかにし、最良の保存環境を求める研究を続け、2008年冬には正式報告書にまとめる予定である。

地下墓TJ04の墓室の壁に掲げた記念プレートには、私たち研究スタッフの意気込みと思いをこめて、次のように記した。

地下墓TJ04修復の記

日本国・奈良大学とレバノン共和国・文化省考古総局は協力してティール市郊外ラマリ地区に所在するローマ時代地下墓TJ04の保存修復研究を2004～2007年度の4か年にわたって実施した。本研究には日本とレバノン両国の保存科学・修復学・考古学・地理学・美学美術史学の研究者・大学生およびティール県住民など延べ100名が参加し、おのおのが持てる知識・技術・感性を発揮して一致協力して研究にあたり、古代レバノン文化を明らかにするとともに地下墓の修復を成しとげた。保存修復の完成にあたり、本研究が日本とレバノンの学術交流の成果であることを確認し、両国民の友好の証であるとともに平和と発展を願うものである。

2008年3月

日本国・学校法人奈良大学
理事長 市川良哉



チーム 2007-1



チーム 2007-2

追記 本研究は学校法人奈良大学創立80周年を記念して企画し、80周年記念寄付金、奈良大学総合研究所特別研究費、私立学校教育学術振興資金、アジア福祉教育財団助成、文部科学省科学研究費補助金等の多くのご援助のもとに実施した。

また、本研究はレバノン文化省考古総局の全面的な協力のもとに実施し、在日本レバノン大使館、日本外務省中東一課、在レバノン日本大使館等の助言・支援をいただいた。記して感謝申し上げます。